

新温泉授業スタンダード5(Five)

＝ 授業での徹底実践事項 ＝

新温泉町立小・中学校

I 授業のはじめに「めあて」を提示する。(毎時、必須)

- 「めあて」＝「本時のゴール(何が、どこまでできればよい)」をはっきり示す。(文末は、「～ができる」「～が分かる」)
- 「めあて」は、すべての子どもと共有する。(子どもたちが、「めあて」を理解している。)

II 子どもたちが主体的に考え、判断し、発表(発言)する場を設ける。

- 子どもに判断させ、自分の考えに理由を付けて発表(発言)させる。
- 「どこから(根拠)」「どうして(理由)」「だから(主張)」の3つで、自分の考えを説明させる。

III 話し合う活動(ペア、グループ、全体)を設ける。

- 話し合う活動の「目的」「内容」「方法」を明確に示す。
- それぞれの考えを比較したり、関係付けたりする「考えあわせ」(≠「答え合わせ」)の場とする。(「折り合いを付ける」話し合い)

IV 本時の学習内容を習得・活用する場面を設ける。

- 「適用題」「問題作り」「学習のまとめ」等、本時の学習内容を活用する時間を設定する。
- 後半重視の授業を心がける。

V 子どもたちに授業の「振り返り」をさせる。(毎時、必須)

- 「めあて」に対して、何ができる(分かる)ようになったかを振り返る。
- 授業のまとめは、子どもに「自分の言葉」で表現させる。

【解 説】

- I 授業のはじめに「めあて」を提示する。(毎時、必須)
- 教師からの一方的な提示にしないこと。
 - 子どもにとって、本時に解決する課題として共有できていること。
 - 提示するのは「活動内容」ではなく、「授業のゴール」。
Ex. 「棒グラフについて調べよう」(活動内容)
「自分の力で棒グラフが書けるようになろう」(めあて)
- II 子どもたちが主体的に考え、判断し、発表(発言)する場を設ける。
- 教師が子どもに対して説明するのではなく、子どもに説明を考えさせ、子どもの言葉で説明させる。
 - 子どもの説明が不十分な場合は、他の子に質問・補充説明をさせる。(子どもを繋ぐ)
 - 教師は子どもの代わりに説明するのではなく、説明の不十分な点や矛盾点を質問し、クラス全員が考え、回答を創り上げる。
- III 話し合う活動(ペア、グループ、全体)を設ける。
- 話し合う必要性を子どもが感じる話題を投げかける。(それぞれの考えを比較・関係づけをし、よりよい考えにまとめる 等)
 - 制限時間内で解決に導かせる。(BEST より BETTER を目指す)
 - 話し合いの結果は、必ず表現させる。
- IV 本時の学習内容を活用する場面(習得する場面)を設ける。
- 後半重視型授業…学力の定着のために、一番時間をかける。(思考・スキル)
 - 教師による肯定的評価、褒め言葉を使う。(できることへのメタ認知へ)
- V 子どもたちに授業の「振り返り」をさせる。(毎時、必須)
- 必ず自分の言葉で表現させる。そのことで、自分の状況(何が分かったか(できたか)、何につまずいたか)をメタ認知させる。
 - 次時への展望を持たせる。(主体的な学びへ)